

倉沢 一 氏（元地質調査所）日本地質学会名誉会員に

富樫 茂子（産総研 評価部）

倉沢 一さん（元地質調査所）が2011年5月の一般社団法人日本地質学会総会で名誉会員に選ばれました。倉沢さんは、1955年に東京教育大学大学院理学研究科地質学鉱物学専攻を修了後、1956年に通産省工業技術院地質調査所に入所し、日本の同位体地質学・地球化学の草分けの一人として活躍されました。

倉沢さんは、1966年に「北九州、北松浦玄武岩の岩石学的研究」により、東北大学から理学博士の学位を得たあと、1966～1967年にはデンバーの米国地質調査所において同位体地質学の研究を開始しました。その後、地質調査所の研究室を立ち上げ、日本の火山岩や深成岩のSr同位体を系統的に測定して、後世に残る多くの論文を公表しています。研究の対象は、デカン高原玄武岩、アポロ月試料、南極ロス島火山岩へと広がっています。また、1968年に作製した地質調査所の岩石標準試料JB-1（北松浦玄武岩）は、急速に発達した機器分析に不



倉沢 一 氏

可欠でした。技術部地球化学課で活躍の後、1975年以降は、企画室付、九州出張所長、海外地質調査協力室長、北海道支所長を歴任されました。また、国内外の学会活動や、後進の指導にも熱心に取り組みられました。地質調査所退職後は1990～1998年まで工業技術院研究協力センター長を務められ、写真や七宝焼の芸術家としても活躍されています。

【スケジュール】

12月3日～ 2月26日	エキスポセンター研究機関等紹介コーナー展示「ジオネットワークつくば」の3年間の活動軌跡（つくばエキスポセンター） http://www.geonet-tsukuba.jp/event_calendar/gnt3years.html
1月20日	第31回産総研サイエンスカフェ「もっと使おう地熱エネルギー！資源大国ニッポン 地熱利用の可能性」 カフェ・ベルガ（つくば市） http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2012/ev20120120/ev20120120.html
1月24日～ 3月25日	地質標本館特別展示「地質情報展」と2011 再展示」
1月31日	第18回GSJシンポジウム「社会ニーズに応える地質地盤情報ー都市平野部の地質情報をめぐる最新の動向ー」（日本大学文理学部 百周年記念館（東京都世田谷区）） http://www.gsj.jp/Event/120131sympo/index.html
1月28日	ジオネットワークつくば第26回サイエンスカフェ「サイエンスのまわりで人をつなげ！」（つくば市小田古民家） http://www.geonet-tsukuba.jp/cafe/cafe_26.html
2月4日	うしくサイエンスフェスタ2012 （牛久市中央生涯学習センター）
2月15日	平成23年度埼玉県地震対策セミナー （埼玉会館 大ホール（さいたま市））
2月22～25 日	第1回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップ（産業技術総合研究所つくばセンター共用講堂） http://geodp.gsj.jp/Event/AsiaPacific/
2月26日	ジオネットの日 （つくばエキスポセンター）
2月28日	第13回日本ジオパーク委員会 （経済産業省別館）

◆ 編集後記 ◆

このたび、産総研地質調査総合センター（GSJ）の広報誌「GSJ 地質ニュース」が創刊となりました。これまでGSJで編集・発行してきました「GSJ ニュースレター」を発展的に引き継ぐ広報誌です。とはいえ、新広報誌の創刊号とあって、手さぐり状態でしたが、なんとか無事編集・発行することができました。

創刊号には、産総研地質分野研究統括の山崎理事とGSJ内の各ユニット長から広報誌創刊に寄せての記事を投稿していただきました。この他に、産総研地質調査総合センターの前身の地質調査所OBである故廣川 治氏のご遺族から昨年多額のご寄付を賜り、その報告を佃GSJ代表から、そして廣川 治氏のお人柄にまつわる記事を同じくOBの山田直利氏から寄せていただくことができました。さらに、書籍の紹介記事2編（七山氏）、ニュースレター2編（大和田・佐藤氏、富樫氏）、口絵2編（竹内氏、地質標本館）の記事があり、盛りだくさんです。

本誌の表紙ですが、写真家の斉藤麻子氏のライフワークである「露頭写真」をしばらく連載させていただくことにしています。地質の専門家ではない斉藤氏の視点での露頭写真をこれから見ていきたいと思います。

今後も皆さんからの積極的な投稿をお待ちしていますのでよろしくお願いいたします。

（1月号編集担当：利光誠一、デザイン・レイアウト：菅家亜希子）